

第12回学会賞（実践部門）の実践内容と受賞理由

医療法人博仁会志村大宮病院および社会福祉法人博仁会介護老人保健施設大宮フロイデ
—地域リハビリテーションのネットワーク構築と患者・利用者・職員も参画するまちづくりへの積極的参画

実践内容

博仁会は、1951年志村大宮病院を開設した後に、1996年老人保健施設大宮フロイデハイムを開設した。法人形態としては、1957年医療法人を設立、2000年には社会福祉法人博仁会を設立し、医療法人と社会福祉法人を一体的に運営している。

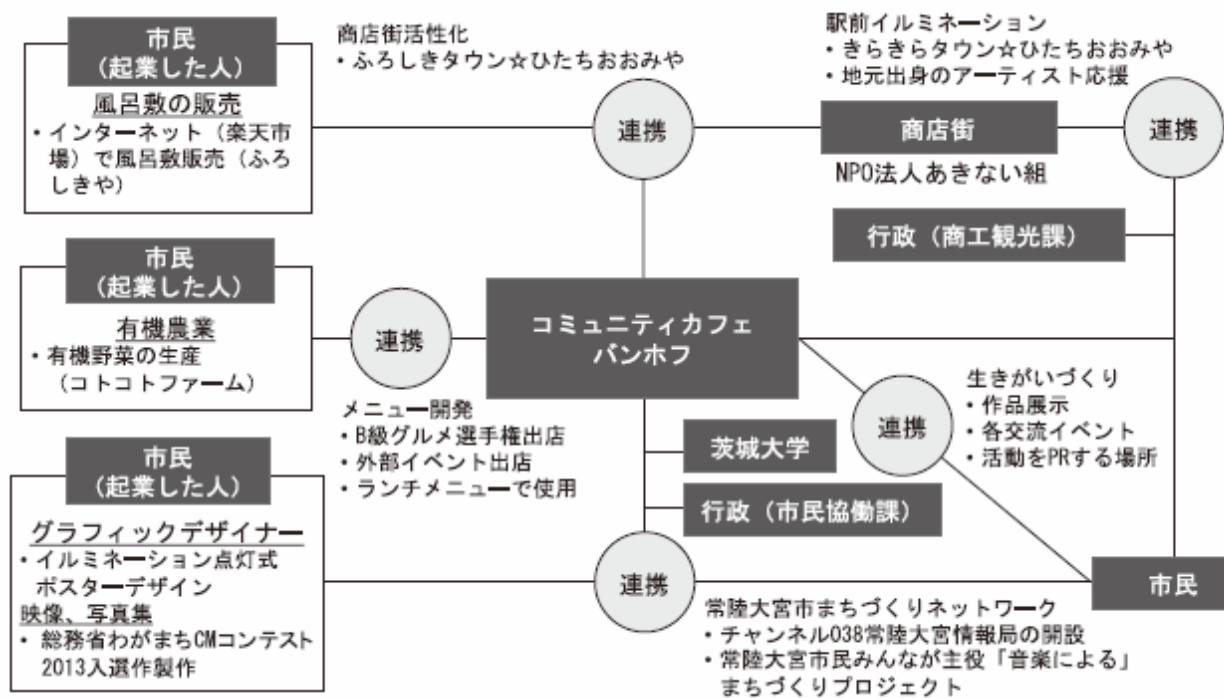
博仁会が所在する常陸大宮市は、人口約4万人、農業主体の産業構造、高齢化と人口減少が進行している都市であり、多くの住民は茨城県の5.7%を占める広域に持ち家で暮らしている。博仁会は、この広域を対象に地域リハビリテーションのネットワークを構築してきた。地域リハビリテーションのネットワークは、病院を中核として、各地にデイサービスを中心とした介護関連施設を順次配置する方法で進められてきた。すなわち、志村大宮病院と茨城北西総合リハビリテーションセンターを常陸大宮市の急性期から回復期の入院医療を担う中核施設とし、デイケアセンターやデイサービスセンター、在宅サポートセンターといったサテライトセンターを配置し、訪問看護・介護サービスや配食サービスを広い地域に提供できる体制となっている。医療・介護・リハビリテーションが協働してサービス提供なされる体制が造り上げられている。

博仁会では、在宅サービスだけでなく病院・入居型施設のサービスを提供できる体制は、利用者に安心感をもたらすもので、そのサービスには重要な意義があると考えている。

博仁会の医療・介護サービスは、職員が患者・利用者自身で目標を設定しリハビリテーションに取り組めるようにしている点に特徴がある。具体的には、患者・利用者自身が電車に乗って買い物に行けるようになるなどの目標を定め、それを可能とするリハビリテーションプログラムを作成し実施する。利用者は当日の訓練を自分で選択し、その実行状況が情報通信技術を活用してモニタリングされる仕組みとなっているほか、訓練実績に応じて施設内のカフェでの喫茶の際に使用する施設内通貨（FURO）がもらえる仕組みとなっている。このような仕組みは、職員が考案し実施しているものである。

職員の創意工夫・実現は、施設内に留まらず街づくりでも発揮されている。博仁会の職員が自主的に立ち上げた地域活性化プロジェクト「フロイデ DAN」は、その一例である。常陸大宮駅周辺には、博仁会関連施設が配置されているが、2012年2月に閉店した電気店を改装して職員たちが駅前で作った Community Café BAHNHOF（コミュニティカフェ・バンホフ）も設置されている。博仁会では、職員がコミュニティカフェ・バンホフを拠点として様々な活動を行う地域活性化プロジェクト「フロイデ DAN」を展開している。

地域活性化プロジェクト「フロイデ DAN」には、作業療法士などのセラピスト専門職も参加しており、その活動は広範囲となっている（図表参照）。健常者と自覚している住民から見ると医療・介護・リハビリテーションサービス提供機関は非日常的な存在であるが、このプロジェクトを進めることで医療・介護・リハビリテーションサービス提供機関に、地域住民と多くの日常的な接点もたらされている。



(出典) 磯田夕里子・恩蔵直人「まちづくりを担う病院経営」JAPAN MARKETING JOURNAL Vol.36 No.4(2017)

受賞理由

日本リハビリテーション病院・施設協会は、地域リハビリテーション活動は地域リハビリテーション活動支援事業等と考えられることが多いが、今後の地域リハビリテーション活動は「地域づくり」だと考えるべきであり、全国の地域リハビリテーション活動が地域作りを担うこと期待していると表明している（日本リハビリテーション病院・施設協会「地域包括ケアの構築に向けた地域リハビリテーション活動報告書」2017年9月）。病院に通院・入院しない住民や介護施設からサービスを受けない住民も地域住民である。このような住民から見ると病院・介護施設は遠い存在であり、両者の間には目に見えない高い壁が存在する。地域づくりには、高い壁を感じない住民も巻き込む必要がある。病院介護施設職員がコミュニティカフェ・バンホフを拠点に地域住民との交流活動を展開するのは、一見すると本来業務をはみ出した活動のように見える。しかし、リハビリテーションが施設内で完結せず地域に展開させようとするならば、この活動も本来業務として捉えるべき面が多くある。この意味で、博仁会は、1996年にリハビリテーションを設置し、長く地域のリハビリテーションとネットワーク構築に取り組み、様々な活動を展開してきた。博仁会の取組は、地域づくりの好事例・先駆的取組事例として他の地域でも参考に出来る点で高く評価できる。

不安の解消を求める患者・利用者に安心感をもたらすサービス提供と博仁会職員の満足度の高さと商店・行政等の社会的連携の三者は、相互に補完し合い、安定的かつ継続的な動きとなっている。組織の経営に留まらず、地域経営的な広がり形成している点は、注目すべき点である。

また、博仁会の取組は、社会を対象としたマーケティング活動の側面もある。そのマーケティング活動は、利用者・関係者が当事者になり、マーケティング実施主体の職員と協働活動をする点に特徴がある。医療・介護・リハビリテーション組織が、社会を対象としたマーケティング活動を実施使用とする際には、参考になる先進例と考えられる。